

平成19年度 長尾こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	長尾こども文化センターの管理運営に関すること 稲田小学校・久地小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他のこども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後もこども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	昨年同様、ヒアリング、アンケート、こども会議、運営協議会等の方法でニーズの把握を行った。ヒアリングは、行事等の具体案について利用者に聞くなどした。アンケートは、記入された内容を会議で話し合うなど、効果的に活用した。わくわくプラザでは保護者懇談会を定期的に行い、利用者の意見を聞いたり、親睦を図ったりした。また、こども文化センター、わくわくプラザ内に意見箱を設置し、様々な要望を把握した。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。意見箱の活用等により積極的にニーズの把握に努めていたことは評価できる。
サービスの提供に関すること	こども文化センター、わくわくプラザの来館、参加が気軽にできるように心がけた。ヒヤリング、アンケート等により利用者のニーズを把握し、行事の企画・運営に活かした。また、部屋に装飾を施したり、扇風機や暖房器具の効果的な投入を行い、施設改善、環境整備などに力をいれた。	運営協議会やこども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。

事業の実施に関する こと	年間計画等に基づき行事等を実施した。また、運営協議会主催で「長尾こども文化センター祭り」を行った。子育て中の保護者へ親と子の広場という情報共有の場を提供した。庭にお花を植えるなど地域の方々と、こども文化センター内外の清掃を行いました。	運営協議会等との連携により地域のニーズに合った行事を実施したことは評価できる。今後、ボランティアの活用にも努めること。
個人情報の取扱いに関する こと	財団法人かわさき市民活動センターの個人情報保護方針に基づき取り扱った。館内会議を定期的に行い、職員の意識向上を行った。入館表など具体的には、来館者の個人情報保護のために「ながお遊カード」というシステムを活用している。	個人情報の取扱いについては、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関する こと	館内の定期的な見回りを実施し、子ども達の行動の把握に努めている。昨年同様、窓の開閉制限を、また近所の違法駐車車の排除を実施し、緊急車両の進入路の確保等を行った。不審者の侵入の際、場合によっては通報措置をとるなど、利用者や職員の安全に努めた。	毎日の清掃や始業時の点検を行い、安全性に努めている。また、久地小学校・稲田小学校わくわくプラザにセンサーライトを設置し、より安全性を高めていたことは評価できる。
(2) 利用状況		
①こども文化センター	延べ利用者数 18,537人 延べ団体利用数 6,230団体 (主な行事等) 映画会 こ文まつり (特色のある行事) 菜園活動	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。また、地域との連携を図り行事を実施していることは評価できる。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
②わくわくプラザ	1 稲田小学校わくわくプラザ 登録者数 455人 延べ利用者数 21,986人 (主な行事等) 読み聞かせ ミニ運動会 (特色のある行事) ふれあい動物 2 久地小学校わくわくプラザ 登録者数 411人 延べ利用者数 18,768人 (主な行事等) オセロ大会 七夕工作 (特色のある行事) 泥だんご作り	行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導																														
(3) 収支状況																																
① 収支状況	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="3" style="text-align: right;">(単位：円)</td> </tr> <tr> <td style="width: 15%;">収入</td> <td style="width: 45%;">指定管理料</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">57,430,147</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">支出</td> <td>人件費</td> <td style="text-align: right;">48,239,068</td> </tr> <tr> <td>管理費</td> <td style="text-align: right;">2,926,617</td> </tr> <tr> <td>事務経費</td> <td style="text-align: right;">1,937,847</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td style="text-align: right;">1,436,042</td> </tr> <tr> <td></td> <td>青少年事業資産取得支出</td> <td style="text-align: right;">909,090</td> </tr> <tr> <td></td> <td>減価償却引当資産取得支出</td> <td style="text-align: right;">40,492</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第1回精算に伴う返納金</td> <td style="text-align: right;">636,363</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">56,125,519</td> </tr> <tr> <td></td> <td>差引</td> <td style="text-align: right;">1,304,628</td> </tr> </table>	(単位：円)			収入	指定管理料	57,430,147	支出	人件費	48,239,068	管理費	2,926,617	事務経費	1,937,847	その他経費	1,436,042		青少年事業資産取得支出	909,090		減価償却引当資産取得支出	40,492		第1回精算に伴う返納金	636,363		合計	56,125,519		差引	1,304,628	事業実施後指定管理料の残額を戻入しており指定管理料の範囲内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。
(単位：円)																																
収入	指定管理料	57,430,147																														
支出	人件費	48,239,068																														
	管理費	2,926,617																														
	事務経費	1,937,847																														
	その他経費	1,436,042																														
	青少年事業資産取得支出	909,090																														
	減価償却引当資産取得支出	40,492																														
	第1回精算に伴う返納金	636,363																														
	合計	56,125,519																														
	差引	1,304,628																														

3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者としてこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとのこども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他のこども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。